

(4) 女子中学高等学校の運営総括

I. はじめに

2024 年度年間句

「ですから、あなたがたは、現にそうしているように、励まし合い、お互いの向上に心がけなさい。」
～テサロニケの信徒への手紙 5 章 11 節～

137 年間にわたって北星学園女子中学高等学校はスミス先生の理念に基づき、キリスト教教育の環境の元、生徒一人ひとりの人としての成長をもっとも大切にしつつ、生徒にとって役立つ教育、社会に貢献できる教育に取り組んできました。その生徒と社会のニーズを受けて、なかでもグローバルコミュニケーション、ハーツ、クリティカルシンキングをこれからの生徒に必要な、身につけたい力として取り上げています。

こうした教育環境の下、2024 年度とくに進捗した取組みを以下に記載します。

1. 新カリキュラムの策定と教育の深化：以前から取り組んでいる PBL や授業での探究的な学びの実践をすべての教科で増やし、生徒主体の学びをより進めています。また、キリスト教に基づく学びと行事の枠組みとして”A Life of Purpose”を作成し、目指す教育の共通理解をさらに深めていきます。さらに、STEAM活動も2年目に突入し、取り組む生徒も増えつつあります。
2. 生徒支援の強化：STEPルームの運用体制を整え、従来より多い週5日間の利用が可能になりました。あわせて必要な生徒にハイフレックス授業の受講や学習の柔軟な取組みを可能にして学びにつなげたこともあり、昨年よりも転出する生徒を減らすことができました。また、スクールソーシャルワーカーの導入により、生徒支援を実施するための新しいループブリック基準やフローチャートなどを作成し、新たなサポート制度を立上げることができました。
3. グローバルな取り組みの進展：北海道インターナショナルスクールのスポーツ交流や海外からの入学生受入れなど、新しいパートナーシップに向けて一步を踏み出しました。また、姉妹校の設置や交換留学生の増加などに向けて引続き取り組みます。
4. 財政改善に向けて：前年度より転出者を減らしつつ、去年より多くの入学生を迎えることができました。また、今年度は新コース制度導入により、これまでより効率のよいクラス体制を築きつつ、奨学金支出も減らしています。財政面ではまだまだ厳しい状態に置かれていますが、さらに生徒募集に力を入れて、コスト削減に取り組みたいです。

最後になりますが、新宗教主任の働きにより、教員団がこれまで以上に心を一つにし、生徒の成長を伸ばしていける環境になりつつあります。2025 年度には生徒にとってさらに自分らしさを伸ばしつつ、人を大切にできる生徒を育てていきたいと思っています。

・2024 年度達成状況一覧

事業分野	◎ 達成	○ 達成への進行度 (高)	△ 達成への進行度 (低)	× 中止	計
重点施策	6	1	0	0	7
教学	15	14	0	0	29
経営・管理	5	6	1	0	12
財務	2	8	1	0	11
合計	28	29	2	0	59

※達成度：◎達成、○達成への進行度(高)、△達成への進行度(低)、×中止



北星学園女子中学高等学校
校長 カレン・ベッシン
Karen. E. Bessin

Ⅱ. 重点施策

1. 建学の精神に基づき、さまざまな領域を積極的に学びバラルーツ教育を展開する体制を構築する。

(1)	2025 年度の新カリキュラムではP B Lや探究学習を取り入れ、生徒の自主性とコミュニケーション能力を高める方向の教育体制を推進します。	達成度	○
-----	---	-----	---

教科会で新カリキュラムの到達度、目指す能力、そして各教科独自の生徒主体の学びの取組みを確認しました。

2. キリスト教教育を根幹に据えた言語教育を充実させ、言語を通して自分と向き合い、他者への理解を深める姿勢を確立する。

(2)	日々の礼拝や講堂礼拝での感話や委員会・集会等での対話を重視することで、互いの価値観の違いを尊重し、安心安全な環境の構築に努めます。	達成度	◎
-----	---	-----	---

新しい取組みである「A Life of Purpose」をベースにそれぞれの学年が目指す生徒像や行事の役割を見直し、コミュニケーション、リーダーシップ、ウェルビーイングの強化を目指します。

3. 様々な生徒のニーズをサポートするプログラムを行う。

(3)	ステップルームの環境整備（部屋、スタッフのスケジュール作成、利用基準等の検討）に努めます。	達成度	◎
-----	---	-----	---

ステップルームの整備を進めるとともに、利用基準を定め、4月から運用を開始しました。



▲ステップルーム

(4)	ステップルームでのハイフレックス授業参加について検討します。	達成度	◎
-----	--------------------------------	-----	---

後期から実施し、サポート制度の枠組みにおいてハイフレックス授業の参加を可能としました。また、対象生徒確認のためのフローチャートやルーブリックも作成しました。

(5)	S S Wの加入に際し、活動を支援します。	達成度	◎
-----	-----------------------	-----	---

4月からスーパーバイズの制度を始め、定期的な活動の確認、助言を行いました。

4. 探究的な入試問題の導入と受験生増加に向けた入試制度の在り方について研究し、実践する。

(6)	入試委員会等で入試制度について検討し、教員会議に提案します。	達成度	◎
-----	--------------------------------	-----	---

中学の入試として新形式の Shining 入試を取入れ、今年は 11 名が受験しました。

5. 1クラスの生徒定員数の増加によるクラス数の削減、新カリキュラムによる総授業数の削減を行い、経費削減を図る。

(7)	2025年度の新カリキュラム導入により、クラス構成と時間割を見直し、経営負担を削減します。	達成度	◎
-----	---	-----	---

新コース制度の準備を行いました。新入生から高校のクラスはコースを超えたクラス編成にすることにより、これまでより多様な生徒同士が触れ合えるようになり、財政面でも一歩進んだ制度ができました。

Ⅲ. 教学

I. 教科教育

1. 国際基準を軸としたグローバル教育を展開し、異文化理解の深化を図る。

(1)	留学生、海外の大学生のインターンを積極的に学校に招きます。	達成度	○
-----	-------------------------------	-----	---

インターナショナルスクールとのスポーツ交流、インドの女子校との交流の道を作り、海外学生のインターンを送り出してくれる大学と連携を取りました。

2. ICTの教育活動への利用について研究し、PBL学習、GS Labをはじめとした探究型教育の実践に活かす。

(2)	生徒主体の学びを促進するために、ICTやAIを活用してPBLを通じた実践的な学びの機会を増やします。そのため教員向けのICTやAIの研修実施も積極的に検討を行います。	達成度	◎
-----	---	-----	---

夏季研修会で授業でのAI活用方法、冬季研修で生徒主体の学びについて学ぶ他、古典探究や社会探究の実例を発表、シェアしました。

新カリキュラムで時間割に入っていない4年生のGSプログラムの作成や、授業でAI利用を可能にするための保護者承諾書を作成し案内しました。

3. グローバル教育の一環として自国の言語への理解を深めるとともに、アジア圏内の言語（中国語・韓国語）を第二外国語として履修できる体制を構築する。

(3)	担当の外国語教員について2024年度中に情報収集を行います（カリキュラム内実施は2027年度から、放課後は2025年か2026年から実施予定）。	達成度	○
-----	--	-----	---

新放課後プログラムを作り、2025年度から実施します。韓国語の教員を北星学園大学に紹介してもらい、来年度から有志の韓国語講座がスタートします。

4. 新しい学力観の育成として、現在取り組んでいる「商品開発」の継続・発展を図る。

(4)	外部の講演、放課後活動などでEntrepreneurship（起業家精神）について生徒に紹介します。	達成度	○
-----	--	-----	---

STEAMチャレンジで3Dプリンターのデザインチャレンジを2回行い、ロゴデザインチャレンジを行いました。札幌にあるスタートアップ企業とつながり、これからの取組みの可能性に向けて相談しました。

放課後プログラムに金融関係の講座を設定しました。

5. 伝統と特長を活かした魅力あるカリキュラムを作成し、実践する。学面的なカリキュラムと同時に、人間性のカリキュラムを取り入れ、生徒の勉強の力と生きる力を同時に育てていくプログラム作り。

(5)	新カリキュラムの導入に伴い、観点別評価の研究など生徒の主体性をより重視した授業を展開するための準備を行います。通常の授業のみならず、GSやSTEAM教育などを通して、そうした主体性を育む活動を追求します。	達成度	○
-----	--	-----	---

新しい取り組みである「A Life of Purpose」の仕組みを立ち上げました。それぞれの学年聖句に合う生徒像の取り組みを作って、それぞれの行事が同じ目標に向けて進められるように幅広い学びのプログラムにつなげていきます。

6. 建学の精神に基づき、さまざまな領域を積極的に学びバラルーツ教育を展開する体制を構築する。

(6)	2025年度の新カリキュラムではPBLや探究学習を取り入れ、生徒の自主性とコミュニケーション能力を高める方向の教育体制を推進します。	達成度	○
-----	--	-----	---

教科会で新カリキュラムの到達度、目指す能力、そして各教科独自の生徒主体の学びの取り組みを確認しました。

7. 姉妹校をはじめとし複数の海外学校との提携を通して女子教育の世界的なネットワークを構築する。

(7)	北海道 International School との交流活動を追求します。	達成度	◎
-----	--	-----	---

スポーツ交流を実施しました。



▲H I Sとバレーボール交流

(8)	海外の中学校・高校との交流の可能性を追求します。	達成度	○
-----	--------------------------	-----	---

インドの女子中高と関係構築、アメリカの中学校と交流の可能性に向けて取り組みました。

(9)	カナダ研修後、RCAとの交流を継続できる取り組みを模索します。	達成度	◎
-----	---------------------------------	-----	---

RCA教員との交流を行い、研修後、生徒から手紙や写真などを送り、交流を深めました。



▲カナダ語学研修

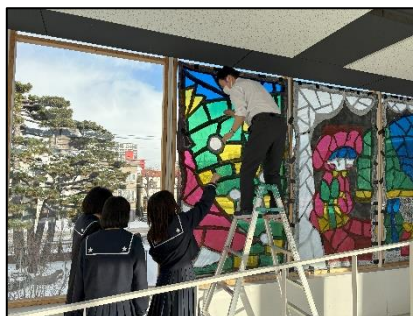
8. キリスト教教育に基づき、困難や試練の中にあっても平和を築く姿勢を確立する。

(10)	日々の礼拝や緑の教室、クリスマス礼拝などの行事等の活動を通してキリスト教的価値観を養います。こうした活動により他者への思いやりを育み、生徒により良い生き方を提示します。	達成度	○
------	--	-----	---

学年活動、キリスト教教育活動、礼拝などにおいて、教員と生徒が一堂に会して他者に思いやりを持って生きていくマインドセットづくりに取り組みました。



▲緑の教室（大学 Kirari にて）



▲クリスマス(ステンドグラス)



9. キリスト教教育を根幹に据えた言語教育を充実させ、言語を通して自分と向き合い、他者への理解を深める姿勢を確立する。

(11)	日々の礼拝や講堂礼拝での感話や委員会・集会等での対話を重視することで、互いの価値観の違いを尊重し、安心安全な環境の構築に努めます。	達成度	○
------	---	-----	---

新しい取り組みである「A Life of Purpose」をベースにそれぞれの学年が目指す生徒像や行事の役割を見直し、コミュニケーション、リーダーシップ、ウェルビーイングの強化を目指します。

10. 上記目標やスクールポリシー・スクールミッション実現に向けた教員研修を実施し、教員の指導力を向上させる。

(12)	夏と冬の研修会のコンテンツの一部を選択制（例：ICTとAIから選択）とし、よりそれぞれの教員の必要に応じた研修とします。	達成度	○
------	--	-----	---

Ⅲ-I-9と同様。

(13)	教員ごとの年間目標を設定します。	達成度	○
------	------------------	-----	---

教員の57%が個人目標を作成しました。教員全員が校長と一緒に1年間の取り組みと一緒に振り替えるコーチングセッションを行う予定です。

Ⅱ.生活指導

1. 自律した生活習慣を身に付け、自治の精神が根付いた集団作りを行う。

(1)	教員も積極的に自治研修や委員会に参加し、学校全体で自治精神の涵養と活動の推進を図ります。	達成度	◎
-----	--	-----	---

これからの学校に向けて生徒会執行部と教員間の意見交換を行いました。

2. 女子単学の環境を活かし、自己を受け入れ挑戦できる土壌を構築する。

(2)	授業での主体的な学びを通して、それぞれの生徒に人間教育プログラムや女子校交流活動への積極的な参加を促します。	達成度	○
-----	--	-----	---

海外の女子校との交流計画を立てている国内の女子校や同盟校と交流しました。

(3)	さまざまな行事への参加を通して主体性や他者との協働性を養う様々な行事を企画し、実施します。	達成度	◎
-----	---	-----	---

ゾンタクラブや札幌インターナショナルナイト、ウポポイでのウアイヌコロ会議など様々な催しに積極的に参加しました。



▲ゾンタクラブとの交流会①



▲ゾンタクラブとの交流会②



▲札幌インターナショナルナイト



▲ウポポイでのウアイヌコロ会議

3. 様々な生徒のニーズをサポートするプログラムを行う。

(4)	ステップルームの環境整備（部屋、スタッフのスケジュール作成、利用基準等の検討）に努めます。	達成度	◎
-----	---	-----	---

ステップルームの整備を進めるとともに、利用基準を定め、4月から運用を開始しました。

(5)	ステップルームでのハイフレックス授業参加について検討します。	達成度	◎
-----	--------------------------------	-----	---

後期から実施し、サポート制度の枠組みにおいてハイフレックス授業の参加を可能としました。また、対象生徒確認のためのフローチャートやループブックも作成しました。

(6)	S S Wの加入に際し、活動を支援します。	達成度	◎
-----	-----------------------	-----	---

4月からスーパーバイズの制度を始め、定期的な活動の確認、助言を行いました。

4. 新しい学力観を充実させるために、学校規模に見合う部活動体制を構築し、大学との連携を図る。

(7)	改革推進委員会で検討・作成し、教員会議を経て実施の準備を行います。	達成度	◎
-----	-----------------------------------	-----	---

放課後活動プログラムについて改革推進委員会で生徒にアンケートを取り8講座に決定、運営方法等を策定、講師に依頼し、5月から講座を開始します。

生徒の主体性を伸ばすため、生徒の意見により名づけを決定し、生徒がデザインした放課後活動プログラムのロゴを採用しました。

Ⅲ. 進路指導

1. 高大連携授業の内容と成果を検証し、多様な連携の在り方を模索し、学園内進学者の増加を目指す。

(1)	高大連携授業で北星学園大学や看護医療系への進路選択支援を行います。	達成度	◎
-----	-----------------------------------	-----	---

5年生で週に1回、それぞれの大学などの先生を招いて高大連携授業を実施しました。

(2)	同盟の大学等との連携プログラムを強化していきます。	達成度	○
-----	---------------------------	-----	---

同盟の大学との話し合いを行いました。

(3)	教員も進路先の特色を十分に理解し、生徒の進路決定をよりしっかりと支援します。	達成度	◎
-----	--	-----	---

北星学園大学の新学科：グローバル・イノベーション学科の教員向けの説明会を行い、教員と生徒のアンケートに協力しました。

2. 海外大学への進学も含め、一人ひとりの生徒が望む多様かつグローバルな進路を実現する指導体制を構築する。

(4)	世界で活躍する卒業生等の話を聞くことができる講演を充実させます。	達成度	◎
-----	----------------------------------	-----	---

海外で活躍する卒業生の話オンラインで聞くことができました。また、世界で活躍する保護者に来校いただき、キャリア学習の一環とすることができました。

(5)	外部団体等と連携し、英語力を活かせる大学や海外大学の情報を生徒に提供します。	達成度	◎
-----	--	-----	---

2025年度から国際教育に関する専用部署を分掌として設置することを決めました。

(6)	海外大学指定校推薦制度について研究します。	達成度	○
-----	-----------------------	-----	---

マレーシアの大学に指定校推薦枠を作りました。オーストラリアの大学との推薦枠は検討中ですが、エルマイラ大学の枠と合わせて3か国の推薦枠となります。

台湾や韓国の大学との連携も進めています。

3. 一人ひとりが目指す生き方を体現する進路選択が可能となる進路指導体制を確立する。

(7)	進路説明会や相談会等の実施を通して、より幅広い進路選択を支えます。	達成度	◎
-----	-----------------------------------	-----	---

中学高校共に進路説明会や進路学習を実施し、卒業生・保護者をはじめ多くの方の協力を得て、よりよいキャリア学習を実現できました。

(8)	スタディサプリを活用し、生徒自身の自立した学習を促進します。	達成度	○
-----	--------------------------------	-----	---

生徒に向けて、ステディサプリの効果的な利用法についての説明会を実施しました。

(9)	進路実現に向けて模試や資格検定の機会活用を積極的に促します。	達成度	◎
-----	--------------------------------	-----	---

外部模試や英検・漢検の試験を校内で実施しました。

IV. 経営・管理

I. 募集体制と広報

1. 探究的な入試問題の導入と受験生増加に向けた入試制度の在り方について研究し、実践する。

(1)	入試委員会等で入試制度について検討し、教員会議に提案します。	達成度	◎
-----	--------------------------------	-----	---

中学の入試として新形式の Shining 入試を取り入れ、今年は11名が受験しました。

2. 通信制学校の研究と設置に向けた検討を行い、多様な学び方の実践と、生徒数の増加を目指す。

(2)	複数の可能性について運営会議で検討します。	達成度	○
-----	-----------------------	-----	---

サポート制度を後期から立上げ、北海道教育学園との協力について検討しました。

3. 留学生・帰国子女入学生の積極的な誘致やインターナショナルスクールとの関係構築を図ることで、グローバルな空間を構築する。

(3)	英語版のホームページやSNSの作成について検討を行います。	達成度	○
-----	-------------------------------	-----	---

校長のブログを英語と日本語で掲載しました。

(4)	本校留学生と在校生の交流の機会を設けます。	達成度	◎
-----	-----------------------	-----	---

ドイツからの留学生との発表会や交流会などを通して生徒と交流しました。

(5)	留学した生徒の経験を共有できる機会を設けます。	達成度	◎
-----	-------------------------	-----	---

帰国した留学生の発表や交流会を実施しました。

Ⅱ. 働き方改革

1. 教頭の役割分担の見直しを行います。

(1)	教頭の役割分担の見直しを行います。	達成度	◎
-----	-------------------	-----	---

教頭の役割の見直しを行いました。

2. 教員の働きと役割を整備し、業務内容のスリム化を実現する。

(2)	分掌等の業務内容や分担について検証を行い、業務の効率化を目指します。	達成度	◎
-----	------------------------------------	-----	---

分掌体制、各分掌の業務を見直しました。また、分掌部長の持ち時間を見直しました。

(3)	現行の学校運営を検証し、学年やコース等の活動内容を確認し、その意義を検証します。	達成度	○
-----	--	-----	---

学校運営全体を見通すものとして「A Life of Purpose」を設け、分掌や学年全体の動きを総合的に考えられるような仕組みを検討しました。

(4)	学校行事に関しても活動内容を確認し、運営等で見直しできないか検証します。	達成度	○
-----	--------------------------------------	-----	---

4年生で実施するルーキーズキャンプの見直しを行いました。

(5)	オンラインでの生徒対応などの業務についても見直しを行い、効率化を図ります。	達成度	○
-----	---------------------------------------	-----	---

生徒の欠席連絡等をオンライン上でできる仕組みを整備しました。

Ⅲ. 採用計画

1. 建学の精神を継承しつつ、新しい時代のキリスト教学校を担うに相応しい教員の採用を行う。

(1)	キリスト教教育を受けた卒業生の動向を把握し、本校を支える教員を採用する際の一助とします。	達成度	○
-----	--	-----	---

校長や宗教主任を中心に教会への訪問を行い、生徒の教会訪問も実施しました。
同盟校間で定期的な情報交換を行いました。

2. 学校の適正規模を念頭に置いた人事計画を作成し、適正な人員配置を実現できる体制を構築する。

(2)	学園内の大学や同盟各校との交流を促進し、今後の交流や配置等について検討を行います。	達成度	△
-----	---	-----	---

管理職で検討を行い、共通理解を深めました。

V. 財務

I. 財務運営方針

1. 2030 年に向けて設定した財政運営目標を達成する。

(1)	入学者増に向けて、SNS等を活用した学校の魅力の発信、卒業生のネットワークの活用、他校の事例及び広報活動の研究、ホームページリニューアルによるPR強化等、広報活動を積極的に展開します。	達成度	○
-----	--	-----	---

他校の事例及び広報活動の研究やホームページリニューアルを行いました。
各種SNSを活用して広報活動を行いました。

(2)	様々な外部の通信制学校の事例を研究します。	達成度	○
-----	-----------------------	-----	---

北海道教育学園を訪問し、複数回打合わせ等を行いました。

2. 1クラスの生徒定員数の増加によるクラス数の削減、新カリキュラムによる総授業数の削減を行い、経費削減を図る。

(3)	2025年度の新カリキュラム導入により、クラス構成と時間割を見直し、経営負担を削減します。	達成度	◎
-----	---	-----	---

新コース制度の準備を行いました。新入生から高校のクラスはコースを超えたクラス編成にすることにより、これまでより多様な生徒同士が触れ合えるようになり、財政面でも一歩進んだ制度ができました。

3. 奨学金制度に頼らない募集方法を研究し、奨学金の削減を図る。

(4)	新しい奨学金制度を、生徒募集とのバランスを考慮しながら検討・実施します。	達成度	○
-----	--------------------------------------	-----	---

募集と支出のバランスを見直し、奨学生の採用を絞ると同時に各奨学金の金額も一部削減などの見直しを行いました。

4. 学園全体の活動を海外在住の卒業生・関係者にもアピールすることで、新しい寄付金募集体制を構築する。

(5)	同窓生のデータベースづくりについて検討を行います。	達成度	○
-----	---------------------------	-----	---

広報部、教育研究部、キリスト教育部、同窓会と連携し、計画を作成しました。

(6)	同窓生から情報を収集します。	達成度	○
-----	----------------	-----	---

6月の同窓会のニュースレターでの実施を予定しています。

Ⅱ. 施設・設備

1. 札幌中心部に位置する学校として、校地・施設を地域に開かれたものとして活用する一方、南4条北側校地や盤溪校地の有効活用を図る。

(1)	花壇の整備を行います。	達成度	◎
-----	-------------	-----	---

定期的な整備を実施し、生徒による植栽を行いました。



▲生徒による植栽



▲札幌庭園工業さんにご協力いただきました

(2)	百周年記念館の見学開放をより積極的にPRします。	達成度	△
-----	--------------------------	-----	---

本校生徒の見学会開催などを進める他、卒業生から施設利用の問い合わせが増えました。次年度からのSNSでのPRを検討しました。

(3)	盤溪校地の実態調査を行います。	達成度	○
-----	-----------------	-----	---

実地調査を行いました。

2. CALL教室機器の老朽化に伴い、探究型教育言語教育に有効に活用できる施設を設計する。

(4)	CALL教室については協働的学習や個別最適化学習のための場としての活用方法について研究します。	達成度	○
(5)	English Lounge の活用方法について研究します。		

3Dプリンターを備えたSTEAMルームを設置し、教育活動に運用を開始しました。



▲3Dプリンターで作成中の様子

3. スミス寮の国際化についての研究と検討を行う。

(6)	国内の国際寮（中学・高校）について情報収集を行います。	達成度	○
-----	-----------------------------	-----	---

海外からの入学者を獲得するとともに、国際教育に携わる分掌の設置を進めました。

以 上